

62. 解答：b

- a. 誤：一般の胸部 X 線撮影が約 120～140kV に対し、マンモグラフィーは 25～32kV 程度の低圧で撮影される。
- b. 正：授乳期では乳腺実質内に脂肪の混在がほとんど無い dense breast のため、病変検出率は低くなる。
- c. 誤？：石灰化がなくても、腫瘤や構築の乱れの所見を呈する乳癌が検出しにくいとはいえない。但し、石灰化を伴う乳癌と比較すれば、石灰化を伴わない乳癌は検出しにくいとも思われる。b. の設問との比較でこちらが誤か？
- d. 誤：専用の乳房 X 線撮影装置が必要である。(余談：20-30 年前には一般の X 線撮影装置を使用して、ゼロラジオグラフィで乳房を撮影していた。)
- e. 誤：一方向のみの撮影では通常内外斜位方向(MLO)を撮影する。

63. 解答：d,e

- a. 誤：スピクラは腫瘤の境界および辺縁の所見で、病変の辺縁にある棘状の線状影のことで悪性を示唆する所見。
- b. 誤：皮膚肥厚は皮膚所見のひとつで腫瘤や石灰化の随伴所見として取り扱われることが多く、所見として独立したカテゴリー分類を行わないことが多い。すなわち、単独で良悪性は判定できない。
- c. 誤：微細線状、微細分枝状石灰化のことと思われるが、良悪性の鑑別を必要とする石灰化の形態を表す所見で悪性を示唆する所見。
- d. 正：明らかな良性石灰化の所見で、退縮した線維腺腫にみられる。
- e. 正：明らかな良性石灰化のうちの石灰乳石灰化の所見で、嚢胞内に析出・沈殿したカルシウムにより三日月状、曲線状を呈する。

以上、解答 62、63 は白木法雄会員（名古屋市立大学大学院）